



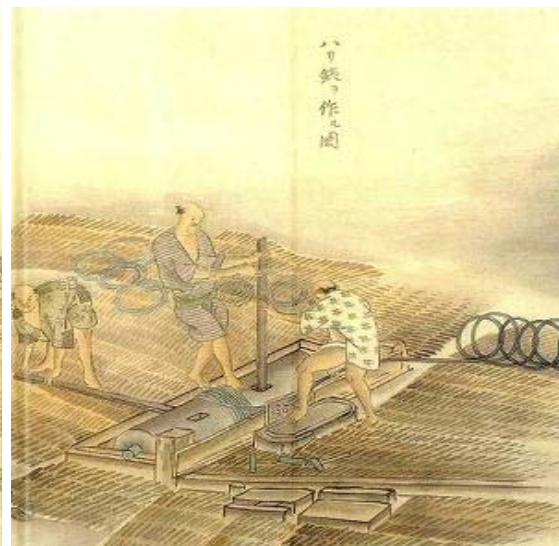
『 針金をつくる 』

鉄素材製造 (第一工程 左図)

割鉄(軟鉄)の一部を加熱した鉄材を3人の手子が鎚で打ち延ばして棒材から線材にしているようすが描かれています。らせん状に束ねてもう一度350℃程度に加熱した後ゆっくり冷却します。これは加工工程で少し硬くなった鉄材を軟らかくするためです。

針金製造 (第二工程 右図)

さらに細くするために、いろいろな径の孔が開いている鉄板(ダイス)に線材を差し込み、巻き取りロールで線材を伸ばして細くし巻き取るようすが描かれています。テコの応用で木製のロールを90度ずつ回転しながら巻き取っています。次にもう一段細い孔を通して線材を製造していきます。江戸時代の技術を描いた貴重な絵図です。



ハリ鍊ヲ作ル図

この絵巻物の描かれた白須山山麓にある稼ぎ場(山内:さんない)には3軒の大鍛冶場と針金工場が描かれています。稼ぎ場の入り口は駄馬と馬子(人)が出入りしますが、柵で囲み、脇から出入り出来ないようにしてあります。

針金はこのように山内で生産されるもののほか、割鉄(包丁鉄)を購入し釘や針の産地で、自分たちの必要とする針金を生産していました。例えば浜坂(兵庫県:縫い針の産地)では運ばれた鉄は、次のような生産工程を経て針となります。

針金屋(鉄線材生産者)→線引屋(伸線加工業者)→針師親方(縫針業者・親方)→下職(親方の元で仕事をする職人、又は仕事)→針問屋(できた製品を集め、販売する)

ちなみに、割鉄には材質や品質により数種のランクがあり、それぞれブランドと品質が表示されていました。

参考資料

たたら 日本古来の製鉄 JFE21世紀財団 2004年
 絵巻物巻物は『先大津阿川村山砂鉄洗取の図』です。
 鐵の道を往く 鐵の道文化圏推進協議会
 山陰中央新報社 2001年3月31日

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!